

「食品に関するリスクコミュニケーション（札幌）」  
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～  
 アンケートの集計結果

開催日：2004年10月8日（金）

参加者数：93名 回答数：45名（回答率48.4%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1)	消費者	4	8.9%
2)	農林水産業	5	11.1%
3)	食品関連事業者	9	20.0%
4)	食品関連団体	3	6.7%
5)	研究機関	0	0.0%
6)	行政関係	15	33.3%
7)	マスコミ関係	1	2.2%
8)	その他	7	15.6%
	・ 生産者（1）		
	・ 団体職員（1）		
	・ 食品製造機器販売（1）		
	・ 消費者団体（1）		
	・ 酪農関係団体（1）		
	・ 無記入（2）		
9)	無回答	1	2.2%

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1)	食品安全委員会のホームページ	9	20.0%
2)	食品安全委員会からのご案内資料	13	28.9%
3)	関係団体からのご案内資料	14	31.1%
4)	知人からの紹介	1	2.2%
5)	その他	7	15.6%
	・ 道新（2）		
	・ 新聞報道（3）		
	・ 職務命令（1）		
	・ 北海道庁からの案内（1）		
6)	無回答	1	2.2%

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1)	評価する	8	17.8%
2)	やや評価する	15	33.3%

3 )	あまり評価しない	13	28.9%
4 )	評価しない	4	8.9%
5 )	無回答	5	11.1%

#### 評価理由

- ・ 一部の人々の意見であること。役所サイドも片手間の仕事であること。安全は追求限界あり、ハイコストだ。リスクヘッジは個人責任有。
- ・ 前回同様、内容がない。同じ事を何度も言っているが、何の進展もない。国も本音を言う必要があるのでは( B S E 検査 = 安全検査なのか )。 S R M の除去が安全性を保つ手段なのでは。
- ・ 消費者のことをよく考えて、結論を出してほしい。
- ・ 言葉の定義をあいまいにしたまま回答をしており、交換になっていないのではないか。質問に答えない(はぐらかしているのがみえる)。
- ・ 何も科学的データ知見として示されていない。異常プリオンとは！なぜ(原因) 実態としてどのように広がったの！ただ、検査の結果と外国での報告の話など、皆知りつくしているヨ。しかも、10月8日時点での国内の発生状況も知っていない。
- ・ 良く理解できた。
- ・ 行政側と消費者、団体との意見があまりにもひらきすぎているのではないか。この意見交換会が意義のあるものになるか、疑問が残った。
- ・ 食品安全委のアリバイづくりに感じる。農林水産・厚生労働省から諮問があってからの意見表明であるはずのものが、結果ありきからの形で動いている。しゃべり過ぎ 今の政治のやり方と同じ。報道に情報を流して、ある程度道すじをつけてから、やりたい方向に持っていこうとしている。
- ・ 各方面の現在の意見がはっきり提示されたと思います。これを国はまっすぐ受けとめ、安全性の高い肉を消費者に提供できるようにして欲しい。
- ・ 近年、このようなリスクコミュニケーションが多く行われ、国民のリスクに対する意識が高くなっていることは評価できるが、安全委員会の立場やリスクに対する考え方の基本をもっと説明すべき。国民のレベルはまだまだ低く、感情的な一方的な意見ばかりが目立つ。メリットとデメリットと説明する、基本的なところを再度強化してもよいのでは。
- ・ 評価するのとしたいところだが、時間が短いので2 )とした。質問も長い、答えも長過ぎる場合があった。
- ・ 前半の説明は何度も聞いていたので、必要ないのではないか。
- ・ 全頭検査の意義、B S E の学識的な説明、リスク評価について等々、参加者が様々にいる中では、これらの説明も必要だったのではないか。
- ・ まず結論ありきのように、だれかも言っていたが「茶番」のようだ。得られた意見を実際に活用しているのか疑問。
- ・ 役所の主催みたい。まず委員が答え、役所は補足にとどめるべきだ。司会者

が言語不明瞭。

- ・ ときおり、受け答えで問題のすり替えを行った。
- ・ 多分他の人の考え方が直接聞けた。
- ・ リスクの評価（科学）と管理（政策）が混同されて議論されている。「評価」に対する意見交換でなく「管理」に関する話題になり、これでは内閣府主催ではなくて、厚生省・農水省主催と変わらない。
- ・ 生産の状況および国産牛の販売状況を把握している担当が見られない。U S の牛肉の輸入前提での会であった。すべて国の方向は決まっているのではないか。国内生産の状況を無視している。
- ・ 意見交換会に対する評価は、その中身がどうであるかで決まる。これまでも参加しているが、消費者、生産者の意見をしっかりと受けとめてもらっていないと感ずる。
- ・ 消費者の納得を得るため必要であり、今後も手法をかえて充分に実施すべきである。
- ・ 意見交換会は参加者のガス抜きのためのもののように感じます。両省のこれからのリスク管理の方向が見えています。これが消費者のためなのですか？
- ・ それぞれの立場での意見交換会。まとめは期待できないわけで、中間報告の実現に向けて取り組んでいただきたい。大変意義のある交換会であった。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- |   |    |       |
|---|----|-------|
| 1 ) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた               | 8  | 17.8% |
| 2 ) B S E 対策について理解が深まった                   | 6  | 13.3% |
| 3 ) 会場参加者と行政関係者との意見交換ができていて良かった           | 12 | 26.7% |
| 4 ) 意見交換というより一方通行の意見表明をする場になっていた          | 9  | 20.0% |
| 5 ) 行政関係者の話をもっと聞きたかった                     | 7  | 15.6% |
| 6 ) もっとわかりやすく簡単に解説してほしかった。(まだまだ難しく理解しにくい) | 11 | 24.4% |
| 7 ) 講演の時間を十分とって背景なども含めて説明してほしい            | 3  | 6.7%  |
| 8 ) 講演時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとってほしい   | 7  | 15.6% |
| 9 ) 偏った意見が目立っていたように思う                     |    |       |

	8	17.8%
1 0 ) 講演資料がわかりやすかった		
	8	17.8%
1 1 ) 意見交換だけではなく、もっと内容について議論することが必要だ		
	8	17.8%
1 2 ) その他		
	6	13.3%

- ・ 消費者、生産業界、食肉関係と分けたリスコミが必要と感じる。
- ・ 事前に質問票を配れば、半分は答弁も整理された。消費者団体、教育関係者も一定以上させた方が良い。PRのため。
- ・ 出された意見が本当に反映されるのか疑問も感じる。参加者はそれぞれの立場で、断片的な情報により主観的に物を考えている。まだまだ、国民の理解（信頼）を得るには努力が必要と思った。
- ・ 「マスコミ発表の後追い」それぞれの立場での周知事実について、意見交換になってしまった。
- ・ 消費者の全頭検査を継続してほしい意見が多いのに、必ず行政側は全頭検査中止の説明をしている。

問5 今回、食品安全委員会プリオン専門調査会では昨年の発足以来、日本のBSE対策について初めて科学的に検証し、その結果を「日本における牛海綿状脳症（BSE）対策について - 中間とりまとめ - 」としてとりまとめ、今後さらに検討を行っていくこととなりますが、この中間とりまとめを行ったことについてどのようにお考えですか？

1 ) 評価する	16	35.5%
2 ) やや評価する	13	28.9%
3 ) あまり評価しない	9	20.0%
4 ) 評価しない	4	8.9%
5 ) 無回答	3	6.7%

#### 評価理由

- ・ 検討が相当進んで良い結論を得ている。
- ・ 内容がとぼしい。
- ・ 不十分であろうが、十分であろうが、形あるものにしたことはよいのではないか。
- ・ 20ヶ月令の根拠があいまい。全頭するか、全頭しないか。
- ・ 何も科学的でない（我国でプリオン病を知っている専門家など無に近い）、専門用語を多く活用したとしても、科学的とは言えないヨ。
- ・ いろいろな意見がきけた。消費者の意見をきこうとする姿勢はいいが、これが有効なものにならなければ意味がないと思う。

- ・ 科学的というよりも、資料の蓄積にほかならない。SRMが本当に適切に処理されているという根拠はいかに？
- ・ 科学的評価を行い、議論を進めていくこと自体が、日本として一歩進んだと考えられるため。
- ・ 科学的判断と科学以外のものからの要請による判断とを、何とか整合させようとする姿勢を、批判する人たちもいるが、今回の委員による科学的判断は、正直なものであったと言える（苦しかったと思います）。基本的に中間とりまとめを評価するものの、若い学生さんたちの“不安”と“不信”をぬぐうためには、新基準づくりもう少しゆっくりと時間をかけるべき（リスクコミュニケーションを若い人たちの中にもっていく）。
- ・ 20ヶ月以下の感染牛が確認されていない。だから、検討する。この意味がやっとわかりました。
- ・ リスク管理省庁の意向が強く出ていると一般に受け止められている。誤解を受けない態勢づくりが大切。
- ・ 対応が遅い。又、米国との輸入再開に向けた協議が進められている中、再開に向けた周辺整備としか考えられない。
- ・ 本当に意見を反映してもらえるのか疑問。
- ・ 「20ヶ月令」の線引きをしてないと「評価」(中間とりまとめ)にあるが、行政の管理手法(20ヶ月令以下は検査対象からはずす)において、数字(20ヶ月)がひとり歩きしている。これは、中間とりまとめを実施した結果によるものと思われる。
- ・ と畜場における全頭検査350万頭分のデータをベースにとりまとめた数字上の評価はあるが、すでにOIEでの報告済のことではないか？
- ・ リスク評価があいまいである。
- ・ 科学的知見に立って白黒をつけた表現を求める。
- ・ 問題となるのは、リスク管理者である両省が、そのリスク評価を自省庁の都合のいいように利用することです。
- ・ アメリカからの圧力を感じるも、日本なりにしっかりした報告であった。
- ・ 21ヶ月令の線引きと受け取れるが、根拠が合理的でない。

問6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	19	42.2%
2) これまでに1回	11	24.4%
3) これまでに2回以上	13	29.0%
4) 無回答	2	4.4%

附問6 - 1 問6で3)を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や進め方は改善されてきていると思いますか。

1) 以前よりは改善されてきた	7	53.8%
-----------------	---	-------

- 2) 改善すべき点がある 4 30.8%
- 改善すべき点があるとしたらどのような点か具体的にお書きください。
- ・ デモクラシー評価。
  - ・ 多少ひな段との距離が短くなったかな？
  - ・ 質問の要旨をもっと集約して、質疑応答をスムーズにすべし。進行(コーディネート)を上手にして欲しい。
  - ・ 問4での話と同様(前例の話がくどく長い。多くの人に話をさせるべき)。
  - ・ 時間的余裕なし。全ての質問に答えていない。ex.ホルスタイン20ヶ月以下出荷時の検査について、安全とは別物ですか。
  - ・ 交換会というよりいいわけ会のように思う。意見を出す事がどれだけ役に立っているのか。一応やりましたでは困る。
  - ・ もっと意見を出せるように、時間も5分ぐらいほしい。回答者の話が長すぎて、前置きだけで、2分以上はありました。
  - ・ 畜産に関する基礎知識レベルが、参加者の中で違いすぎる。あまりにも感情論が多すぎる。
  - ・ 一方通行である。科学的だけでは理解できない。
  - ・ リスコミを行う目的をはっきりと(きちんと)打ち出して開催願いたい。流れで進んでいるような気がする。十分なリスコミは行うべき。
  - ・ アンケート結果の発表がされていない。
  - ・ 講演時間を短くし、意見交換時間を多く持つべき(逃げてはいけない)。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

- |  |    |       |
|--|----|-------|
| 1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開されていること)                 | 13 | 28.9% |
| 2) 食品安全委員会ホームページ(委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等) | 29 | 64.4% |
| 3) 食の安全ダイヤル  | 5  | 11.1% |
| 4) 安全モニター  | 5  | 11.1% |
| 5) 食品の安全性に関する用語集                                   | 11 | 24.4% |
| 6) 食品の安全性に関する政府広報                                  | 8  | 17.8% |
| 7) その他   | 1  | 2.2%  |
- ・ 各省庁のHP、メールマガジン

附問7-1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ SRM除去、合理的検査=全頭否定。プリオン、ウイルスに関し、更に専門的に大規模な長期的特別チームによる研究開発するべきだ。

- ・ 前会の農水、厚生のは、お上の押しつけだった。今回はさすが、コミュニケーション度60%だった。その点評価。聞く耳を持っていた点。全頭検査は少し続けるべきだが、委員の表現（わかりやすい）工夫があれば、なお良い。
- ・ 従来からあった各省庁の“審議会”のようにならないよう（形式的に第三者の意見を聞きました）頑張ってください。
- ・ 終了の時間を守っていただきたい。
- ・ メールマガジンについて。議事録が出され、アンケートの中身も出されていることを評価します。
- ・ 地方に居たらどうアクセスできるか分からない。例えば広報誌は？
- ・ 国民の意見を本当に反映できるのか。
- ・ 全頭検査の継続を要望します。US牛の輸入は解禁すればいい（アメリカの検査の有無にかかわらず）。20ヶ月齢以下は検出できないではなく、安全だといってくれればよい。この意見交換会での消費者からの全頭検査の要望は、しっかり伝わるの？
- ・ 最初から、全頭検査見直しありきで開催されているように感じた。全頭検査はBSEフリーになるまで、実施すべしと考えます。